

## 8. 医療分野におけるAIと日本医師会の取り組み

羽鳥 裕 公益社団法人 日本医師会常任理事

医療は現在大きな変革期にある。諸外国では、医療分野でのIT・人工知能(AI)などの技術に対するスピード感ある対応、法やインフラ整備、ばく大な資本投下が行われているが、日本は対照的に規模もスピードも緩やかである。今回の新型コロナウイルス対応に関しても、英国、米国、中国、韓国では外来診療におけるオンライン診療比率は大幅に増加しており、民間保険会社への保険適用拡大要請や、AIを利用した軽症の症状チェックなどを駆使し、迅速に新型コロナウイルス下での対応を行っている。日本でも、時限措置ではあるがオンライン診療による初診が可能となる対応を行っているものの、診断を含めた初期対応などにおいては国民の期待に応えられていないように見受けられる。新型コロナウイルス後の社会において、国民から見た医療のかかり方・期待も大きく変わることが予測される。また、今後、医療技術の発展による情報量の指数関数

的な増加も想像に難しくなく、医師もすべての情報の確からしさを判断できなくなる事態も起こりうる。IT化におけるコミュニケーション方法の変化や、デジタル化によるデータ量の増加、AIなどの新技術の発展に伴う医療の変革期においては、新技術などの迅速な取り込みや、社会の流れに対応したインフラや法制度などの迅速な整備は、今後の日本の医療において重要なものとなるだろう。

日本における皆保険制度の優位性、医療技術の高さ、優秀な人材の集中などの視点に立ってみれば、将来は明るいように見えるが、その反面、今回の新型コロナウイルス対応、意志決定プロセスを見れば、決して中国、韓国、台湾と比較してすべてが優れているとは言い切れない。今まさに医療は変革期を迎えている。その一端を担うAIは、どのように医療を変えていくのだろうか。

### AI技術の進歩と 医用分野への応用

AIが第三次ブームを迎えてすでに10年以上が経過し、ディープラーニング技術もさまざまな分野で応用され広く研究が進んでいる。医療分野においてもAI技術の応用は進んできており、医用画像診断分野においては、専門医を超える精度で疾患の検知ができる領域も現れている。

日本国内においては、AIを利用した医療機器は「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(医薬品医療機器等法)」において承認を取得しているものもあり、今後も増加を続け市場に展開されていくことが予想される。この流れが本格化してくれば、医療とAIがより密接に結びつき、医療従事者にとってAIを利用した医療機器使用の機会が増加し、また、患者にとってもAIがより身近なものになり、医療の在り方に少なからず変化を及ぼすことが考えられる。

### 日本医師会における AIの取り組み

日本医師会では、このようなAI技術の医療分野応用の流れを踏まえて、日本医師会会内委員会の一つである学術推進会議において、医療・AI技術に関する研究を行っている専門家の方々を